

「G-CLASS 2026」出場選手に訊く ④山村武寛



# 僕がプロレスラーに戻るべきであるなら神様が導いてくれると思っています

5月13日より開幕するGLEATのシングルトーナメント「G-CLASS 2026」エントリー選手インタビューの第4弾は、山村武寛が登場。伊藤貴則や渡辺壮馬という今年に入ってシングルタイトルを獲得した人間を差し置いてのトーナメント出場は、それほど会社の期待がかけられているという証拠。8名の選ばれし者たちの中に入ったことを本人はどう受け取っているかから、取材は始まった。(聞き手・鈴木健.txt)



## 体を張ってやっているからには シングルが一番を味わってみたい

——まず、昨年以上にエントリー選手が厳選された中へ自分が入ったことに関しては、どのように受け止めていますか。

**山村** ハッキリ言うと今も自信しかないんで、入って当然だろうという気持ちです。入れてよかったっていうのはないっすね。今のGLEATベストメンバーだと思うんで、その中で1位を獲りにいくための場という位置づけです。

——そう思えるほど、今の自分はノッていると。

**山村** ええ。特に今年に入ってからルイージ・プリモ、ジャック・カートウィールというクセ者の外国人とシングルでやって勝っているし、3月の配信マッチでも井土徹也に勝って、タイトルマッチとかではないですけどシングルマッチでは負けなしなので、そこは実績を積んできていると思っています。

——その好調ぶりは何によるものなんでしょう。

**山村** 気の持ち方が一番大きいです。今年に入ってから特に1位を獲りたいという思いが大きくなって、それを目標にしてリングに上がった結果、変わってきたんだと思います。去年の2月に石田凱士のG-REX王座に挑戦したんです



けど、そのチャンスを逃してしまった。でも、2023年12月に長期欠場から復帰して現在にいたるまで大きなケガをすることなくやってこられているのも自信の一つになっているんです。首のケガが再発しないことを第一の目標としてやってきた中で、じゃあ次に目指すのは何かと考えた時に、そこはやっぱり一番を獲りたいっていうのが頭をもたげてきたんですね。

——復帰からの約2年間はケガなくやれるかどうかの確認期間でもあったんですね。

**山村** そうです。去年、両ヒザの内側ジン帯断裂はしたんですけど、その段階でスターダスト・プレスをはじめとする飛び技以外で、自分の中で3つ獲れる(ピンフォール)技、ギブアップを獲れる技をいろいろ考えてやってきて、ようやく形になってきた。それを経ての今年なので、G-CLASSはタイミング的にこれ以上ない場ですよ。

——山村選手は#STRONGHEARTSとして、GLEATの一員として、あるいは鬼塚一聖選手とのタッグとしてというように、ユニットや組織、チームの中で自分がどうするかというのを続けてきた選手だったので、一番を獲りたいという言葉が新鮮な気がします。

**山村** タッグで一番になったことは鬼塚がパートナーの時にあったんですけど、プロレス人生においてシングルで一番になったことは今までないんで。シングルのベルトもまだ未体験だし、トーナメントやリーグ戦といったもので優勝を味わったこともない。体を張ってやっているからにはそういうのを経験してみたい。その上で、トーナメントっていうのはタイトル以上にわかりやすく一番が決められる。一発のタイトルマッチではなく、勝ち抜くことで決められる一番ですから。しかも、このベストメンバーだから優勝したら誰も異論はないでしょう。

——しかも1回戦の相手がG-REX王者ですから、勝てばチャンピオンを破ったという実績も付随してきます。

**山村** エル・リンダマンを見てきた自分としては正直、最近パツとしないです。

悩んでいるようにも映るし、チャンピオンらしくもない。何を抱えているのかはわからないけど、あの弾けているリングマンとは違う状態に感じます。去年までは団体のトップとして引っ張っていくという気概が見えたんですけど、今年に入ってからチャンピオンとして突出した存在ではなくGLEATの一部になっている。それが僕の印象です。同じチームになったら、そこは尊敬できるパートナーですけど、対角線に立ったらそういうイメージの方が強く出ると思うので、今の僕ならたとえ向こうがチャンピオンベルトを持っているとしても精神状態で上回れると思うし。

——調べてみると、DRAGONGATE時代は正式デビューの前後でエキシビジョンマッチを5度やって3敗2分(5分ドロ)、本戦では反則勝ち(セコンド乱入)で1勝をあげていますが、1敗1分(5分ドロ)となっています。そしてGLEATでは昨年1月24日のG-RUSHトーナメント準決勝で敗れており、ちゃんとした形では今のところ未勝利です。

**山村** 反則勝ちあげているんですか? いやあ、まったく記憶にないですね。G-RUSHの時はツーカウントルールでは引き分けて、そのあとのワンカウントルールで負けている。純然たるシングルマッチで、しっかりとした決着はまだないんですよ。だから、過去の戦績はまったく関係ないです。お互いの今で勝負した結果、僕が勝つ。今の僕は、発する言葉の強みでいこうと思っているので、そこはハッキリ言います。リングマンに限らず、今回のトーナメントは借りを返したい相手ばかりなんですよね。その中でも同い年の田村ハヤトが一番意識します。30歳同士で決勝戦をやりたいなと。去年までは鬼塚と島谷(NOBU SAN/学年が同じ)もいましたけど、その2人がいなくなった今は田村ハヤトとの間で一番を決めたい。

——その前に準決勝で石田vsKAZMA戦の勝者と当たることになります。

**山村** どっちが勝ち上がってきても、難敵です。石田は復帰戦の相手であり、G-REXに挑戦した時のチャンピオンでもあってどちらも負けているから借りがありますし、これも同い年なんですけど先を進んでいると思うので、絶好のタイミングではあると思います。ただ、KAZMAとはシングルでやったことがないから、その点で興味がある。そういう意味では、誰とやっても楽しみな部分を持てるというのは、闘う上で大きな武器になるんじゃないかって思います。これも復帰してから今までは、プロレスを楽しめるようになるための準備期間だったんでしょうね。



# 遊び心を持った方が自分自身も楽しんでプロレスをできる

——8選手の中では、山村選手が優勝を果たせばもっともガラッと勢力分布図を変えるものになると思います。それほどGLEAT全体に影響を及ぼす。

**山村** それも含めての、一番のタイミングなんですよ。本当に、今しかないって自分に言い聞かせています。今年に入ってシングルで負けなしって言いましてけど、それ以外のものも揃ったので。

——それ以外のものとは？

**山村** 経験値であったり、内容の濃さ、ふり幅の広さであったり、戦績とは別のところでの手応えですね。今思うと、プリモやカートウィールのようなクセのある相手とやったことで経験値を上げられたと思うし、幅も広がった。まさか、ちゃんこシェフになるとは思っていなかったの。

——思っていなかったんですか。

**山村** ピザ職人に対して普通に試合をしてもよかったんですけど、それで勝ったとしても飲み込まれる…存在感で上回られてしまう気がして、自分も何かしないといけないと思った時、過去にちゃんこイベントを何回かやっていたんで「ここはちゃんこだ！」ってひらめきまして。

——あれは当日、試合会場で作ったんですか。

**山村** 昆布出汁を仕込んでいました。練習生時代に、昆布は必須だと教えられていたの。

——でも、あれはプリモのピザのように試合では使いようがないですよ。実際、体の一部とは見なされず、なんの役にも立ちませんでした。

**山村** でもちゃんこシェフの格好のまま闘いましたから、むしろその方が重要でした。カートウィール戦でも向こうがザ・アメリカのような選手だから超・和で対抗するべく羽織袴を着て入場しましたし。

——あれは似合っていましたよ。

**山村** 闘いとは直結しない部分でも、楽しさを求めて工夫するようになりました。

——どちらかということこれまでは、一本気なカラーでしたよね。

**山村** そうでした。でも、遊び心も必要だなと気づいて。その方が、自分自身も楽しんでできるじゃないですか。ケガから復帰した時は、それだけでいっぱいだったのが、いい意味で余裕が出てきてそういうところまで頭がいくようになった。なので、これからもいろんな工夫を見せるので楽しみにしてください。

——境遇的に何度となく大変なことがあったからこそ、そこから脱却してプロレスを楽しめるようになったのは、何ものにも代え難いと思います。

**山村** ここまで来ると、好きで始めたプロレスなんだから、好きなことをするのならちょっとぐらい辛いことも辛く思わずにやるのが当たり前だと思っています。だからこそ、今なんですよ。

——山村選手は頸椎のケガによりデビュー後2年目の2017年10月から2018年12月まで欠場しながらカムバックしたにもかかわらず、2019年4月に再び首の負傷で4年8ヵ月間もリングを離れました。私はあの日、WRESTLE-1後楽園大会の現場にいたので(試合中に山村が動けなくなる)、こうして普通にプロレスをやれるようになった姿を見て本当によかったと思えるんです。そして、よくぞ諦めなかったなと。

**山村** ありがとうございます。もちろんマイナス思考になったり、引きこもりのようになっていたりしたこともあったんですけど、首をケガしたあとに何かの本で、僕がプロレスラーに戻るべきであるならやることさえやっていけば、あとは神様がその方向に導いてくれるというような文言を読んだんです。どんなに時間がかかっても、そのゴールは待っているから、あとはそのゴールに到達する



ためにやるべきことを積み重ねるだけだって。だから長くリングを離れていてもその間は戻れると信じて休んでいました。

——頭ではそのように解釈しても、気持ちがついてこないケースもあり得るじゃないですか。

**山村** その文章に巡り合っていなかったらそうなったかもしれないです。その意味では、運よくそれを読むことができたんでしょね。

——今は首に関する不安は？

**山村** 問題ないです。第1頸椎を留める手術をしたんでそんなに稼働域は広くないんですけど、試合をしてみてもまったく支障をきたしたことがないんで、やっていける自信になっています。

——先日、同じ箇所が原因でDDTの樋口和貞選手が引退という決断をしました。

**山村** まさに同じところだけに、いろいろ思うところがあります。やめざるを得なかった人の今後について、あとはケガで悩んでいる人、シンドい思いをしている人の希望になりたいんですよね。

——よい方向にいった事例として。

**山村** はい。本当、そう思います。

## 不良が普通に授業を受けるだけで評価されるのはおかしいですよ

——ところで、山村選手の凱旋興行はG-CLASS開催中(5月30日)に組まれています。

**山村** 凱旋興行の方が先に日程決まっていたんです。あとでG-CLASSが発表されて、これはヤバいなと。5月に入ってから宣伝活動をしている場合じゃなくなりました。G-CLASSに全集中したいですから。それで4月中に凱旋興行に関してはやるべきことを全部やって、ケリをつけた上で5月に臨めるようにしたんです。

——実際、4月で前売り券が完売したんですよね。その分、大変だったのでは？

**山村** 此花区のいろんなところにポスターを貼ってもらいました。DRAGONGATEの時に1度凱旋興行をやったんですけど舞洲アリーナのサブアリーナだったんです。でも、そこはバスケットボールチームのエヴェッサの持ち物になったんで、開催できなくなって。それで此花区内でできるところと





いったら一休ホールがあるので、今回はそこで。

——小さい頃から知っている会場なんですか。

**山村** そうです。保育園の時はお遊戯会の会場になりましたし、成人式の会場でもあったので馴染みが深い場所なんです。

——まさに山村武寛史においてともに歩んできたかのごとく。そこでプロレスの試合はやったことがあるんですか。

**山村** 大阪プロレスの大会で1度ありました。此花区自体、それほどプロレスがおこなわれる街ではないんで。でも、JR西九条駅から歩いていけますし、もっと近くには阪神千鳥橋駅もある。なんばからも梅田からも一本だから交通の便がいいんですよ。此花散策もかねて来てもらえるという。

——桜宮高校野球部関係で協力はしてもらっているんですか。

**山村** まったくないです。桜宮は都島区にあるから、此花からはちょっと離れているので。だから、此花時代の同級生にいろいろと宣伝してもらっています。

——GLEATは梅田のステラホールや、先日は扇町で大阪大会をやっていますが、それとは一味違った此花ならではのものを見せるつもりでいるんですか。

**山村** いや、そこはむしろ通常のGLEATを見せたいという思いですね。特別なことよりも、GLEATそのものを見てもらって、面白いと思ってほしい。通常の大阪大会以上に見たことがない人が大半だと思うので、僕の凱旋きっかけで普段着のGLEATにハマってほしいです。そこでGLEATを好きになってくれた人たちのために年に一度はやりたいと思っているし。だから自分のためというよりもGLEATを知ってもらうためのきっかけとしての此花大会ですね。

——わかりました。あと聞いておきたいのが、河上隆一選手のことは信じていますか。

**山村** ……(長考)。

——停まりましたね。

**山村** ……7割。

——あとの3割は？

**山村** なんか不気味。7割信じてはいますけど、急にあんなお花畑になれるのかなって、考えが及ばない部分があるので、それが3割ですね。100%信じるには、まだ時間がかかります。

——そうですか。比較的スムーズに組んでいるように見えたので。

山村 すんなり組んではいますが、全部信用しきっているわけではないです。ただ、うまくいった時の爆発力はすごいと思いました。まだ1回ぐらいしか組んでいないので、このまま回を重ねれば100%に近づいていくのかもしれませんが。去年までやられたいろいろなことに関しては、わりとスッキリしています。ただ、これは自分以外の人も含めてなんですけど、みんな騙されているというか…河上隆一って、学校における不良と一緒になんですよ。今までさんざん悪いことをしてきたやつほど、普通に授業を受けるだけで評価されたりいい子になったって見られたりするじゃないですか。あれって、本来はおかしいんですよ。

——当たり前のことをやっているにすぎないのに賞賛されるという。

山村 本当は授業を受けた上で、テストでいい点を取らないとそれまでにやってきたことは埋められないはずなんですよ。そんな授業を受けただけで褒められるんだったら、それまで真面目にやってきた生徒はどうなるんだっていう話じゃないですか。河上隆一も、それまでやってきたことがヒドすぎたんで、その反動でなんかいい人に見られている。そこは周りも間違っちはいけないと思うんです。

——ファンもそんな感じですね。

山村 まあ、気をつけるに越したことはないんで。ちゃんとあとの見えない3割を忘れることなく組む時は組みます。

春の頂上決戦、開幕

敬意と報復

**2026 G-CLASS**

**FIRST ROUND 5.13 新宿FACE**

**SEMI FINAL 5.20 新宿FACE**

**FINAL 6.4 新宿FACE**

エル・リングマン

山村武寛

石田凱士

KAZMA SAKAMOTO

T-Hawk

田村ハヤト

河上隆一

プラスチックJUN

**G-CLASS 2026**

■開幕戦 5.13(WED)新宿FACE ■準決勝 5.20(WED)新宿FACE ■決勝戦 6.4(THU)新宿FACE

■SRS席 ¥10,000 ■カウンター席 ¥10,000 ■リングサイド席 ¥6,500 ■指定席A ¥5,500 ■指定席B ¥4,500  
※小学生以上有料 小学生未満は席が必要な場合は有料 ※当日¥500アップ  
※入場時に別途ワンドリンク代¥600が必要になります。※SRS=スペシャルリングサイドは各方向1列目

お問合せ リデットエンターテインメント株式会社  
エンターテインメント事業部 03-5219-7717 <https://ent.lidet.co.jp/gleat/>

O-テレ e+ イープラス ぴあ GLEAT プロレス 検索